

第59回 三重県透析研究会学術集会

プログラム



会期

令和5年 3月5日(日)

会場

Web開催

当番幹事

増田 智広

医療法人 尚豊会 みたき総合病院
腎臓内科・人工透析内科

第59回
三重県透析研究会学術集会

プログラム

会期 令和5年 3月5日(日)

会場 Web開催

当番幹事 増田 智広
医療法人 尚豊会 みたさ総合病院
腎臓内科・人工透析内科

ご 挨拶

第59回三重県透析研究会学術集会 当番幹事

増田 智広 医療法人 尚豊会 みたき総合病院
腎臓内科・人工透析内科

このたび2022年3月5日(日)にWEBにて開催される第59回三重県透析研究会学術集会の当番幹事を拝命いたしました みたき総合病院の増田智広です。

2020年に端を発した新型コロナウイルス感染症ですが、ウイルス株はどんどん新規のものが発見される中、予防接種及び治療薬に関する知見も蓄積され年を追うごとに与し易くなってきています。そんな中、全国規模の学会ではweb開催の規模は縮小し現地開催を選択する団体が増えていますが、今年度の本会については三重県という地理的に広大な土地柄「webなら参加できる」という方々にまで広く学びや気づきの機会を提供できうる利を鑑みて去年に引き続きweb開催を選択しました。

今回、特別講演には名古屋大学大学院医学系研究科 腎不全システム治療学寄附講座 特任教授・水野正司先生に「ハイブリッド透析 ～PD主治医からHD主治医にお願いしたいこと～」を講演頂く事になりました。水野先生は腹膜透析における腹膜機能低下機序の一つとして重要な補体系を介した炎症についての研究をライフワークとされながら腹膜透析普及に尽力されています。昨今、腹膜透析に血液透析を併用する「ハイブリッド療法」が保険収載され私たち血液透析を主としている施設にも腹膜透析患者を診る機会が増えてくる事が予想されますので、先生には腹膜透析主治医として血液透析担当医に期待するところや留意点をご教授頂く予定です。

本学術集会が会員の皆様にとって実りある有意義な会となりますようお願いつつ、会員の皆様には御指導・御支援賜わりますようお願い申し上げます。

令和5年1月吉日

日 程 表

	Zoom 第1会場	Zoom 第2会場
9:00	9:10～ 開 会 式	
10:00	9:20～10:10 一般演題 1 臨床工学技士部門 1 5 演題 座長：岩井 勇樹(みたき総合病院)	9:20～10:10 一般演題 2 看護部門 1 5 演題 座長：綿引 直美(鈴鹿回生病院)
11:00	10:20～11:20 一般演題 3 臨床工学技士部門 2 6 演題 座長：西田 順二(桑名市総合医療センター)	10:20～11:20 一般演題 4 看護部門 2 6 演題 座長：二之湯 勝則(市立四日市病院)
12:00	11:30～12:20 共催セミナー 1 CKD と貧血 座長：川村 直人(主体会病院) 演者：村田 智博(三重大学医学部附属病院) 共催：田辺三菱製薬株式会社	11:30～12:20 共催セミナー 2 わたしたちが目指す腎不全看護のあり方とは 座長：藤見 奈央(三重大学医学部附属病院) 演者：今井 早良(日本赤十字社医療センター) 共催：テルモ株式会社
13:00	12:30～13:30 特別講演 ハイブリッド透析 ～ PD 主治医から HD 主治医にお願いしたいこと～ 座長：増田 智広(みたき総合病院) 演者：水野 正司(名古屋大学大学院医学系研究科)	
14:00	13:40～14:40 一般演題 5 シャント管理部門 6 演題 座長：加藤 佳史(永井病院)	13:40～14:40 一般演題 6 医師部門 6 演題 座長：坪井 俊樹(市立四日市病院)
15:00	14:50～15:40 共催セミナー 3 血液透析患者における CKD-MBD 管理 座長：町田 博文(武内病院) 演者：鍋島 邦浩(名港共立クリニック) 共催：株式会社三和化学研究所	14:50～15:40 共催セミナー 4 生命予後を意識した CKD-MBD 治療 座長：西村 広行(遠山病院) 演者：成瀬 友彦(春日井市民病院) 共催：キッセイ薬品工業株式会社
16:00	15:50～16:00 閉 会 式	

プログラム

Zoom 第1会場

9:10～ **開会式** 当番幹事 増田 智広(医療法人 尚豊会 みたき総合病院 腎臓内科・人工透析内科)

9:20～10:10 **一般演題1 臨床工学技士部門1**

座長：岩井 勇樹 先生(みたき総合病院 臨床工学部 主任)

1-1 当院における COVID-19 透析患者の透析療法・感染対策について

○関岡 彩華(Ns)¹⁾、三井 美輪¹⁾、中村 てるみ¹⁾、大和 俊介²⁾、米村 重則²⁾、中島 淳子¹⁾
1) 松阪市民病院 看護部、2) 同 泌尿器科

1-2 COVID-19 陽性の透析患者の受け入れを経験して

○吉田 美羽(CE)、三宅 真人、安江 一修、安田 芳樹、水野 大貴、山下 大輔
JCHO 四日市羽津医療センター

1-3 臨床工学技士が透析条件の変更に積極的に関与することで得られた変化

○坂本 悠(CE)、三上 昌志、毛受 裕貴、堤 陽平、坂口 幸伸、坂田 久美子、伊與田 義信
医療法人勢風会 津みなみクリニック

1-4 A・B 透析液溶解装置へ推奨品外の洗浄消毒剤を使用した経験 ～薬剤による経年劣化対策～

○小野 君恭(CE)、中村 博一、白前 達大、寺村 郁哉、世古 忠士、福永 旭弘、伊藤 和徳、
出口 勝博
三重県立総合医療センター 臨床工学室

1-5 自動腹膜透析を導入して ～遠隔モニタリングでの CE の役割～

○山田 大(CE)、加藤 佳史、服部 航也、渡邊 智裕、戸登 昭良、高橋 大貴、佐藤 将史、
広瀬 梧朗、奥山 大貴、野村 裕輝、宮坂 佳裕、小嶋 岳人、木村 みほ、酒井 愛梨、
田中 奈央子、奥田 祐希、宇佐美 俊介、山口 翔、水野 美香、奥田 将
医療法人 永井病院

10:20～11:20 **一般演題3 臨床工学技士部門2**

座長：西田 順二 先生(桑名市総合医療センター 腎臓内科)

3-1 虚血性下肢潰瘍にレオカーナを使用した1症例

○西口 隆史(CE)、中根 義仁、谷野 愛美、森 未奈、有村 祐香、河島 順子、松村 照世、
古賀 希、伊藤 美香、松岡 恵理、中澤 亜希子、玉田 香介
医秀会 玉田クリニック

3-2 HIF-PHによりESA低反応性貧血の改善を認めた1例

○柳田 圭祐(CE)、川波 かおり、出岡 悦子、山本 和昇、中田 敦博、伊藤 英明子、
岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

3-3 BVPlusを用いたヘマトクリット(Ht)値の評価検討

○奥村 直政(CE)、渡邊 知美、岩井 勇樹、伊藤 彰人、本多 越次、上野 俊、増田 智広
医療法人尚豊会 みたき総合病院

3-4 閉塞性動脈硬化症の血液透析患者に対するレオカーナの使用経験

○窪田 英里子(CE)、長谷部 佑二、田辺 さくら、川野 遼平、竹田 健吾、小倉 脩平、
柳田 圭祐、加藤 裕介、鬼頭 佳史、山下 智史、藤川 兼一、三浦 隆史、山本 和昇、
中田 敦博、伊藤 英明子、岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

3-5 PMMA膜の使用経験

○堀本 夏未(CE)¹⁾、藤山 智己¹⁾、仲森 陽菜¹⁾、瀬川 大雅¹⁾、前野 文哉¹⁾、山川 誠人¹⁾、
小津 陸斗¹⁾、平岡 あかね¹⁾、塚原 蓮々¹⁾、黒宮 俊¹⁾、片岡 祐也¹⁾、伊藤 史朋¹⁾、
柴田 翔子¹⁾、森 亨子¹⁾、佐々木 太一¹⁾、尾間 勇志¹⁾、清原 実千代²⁾、小藪 助成²⁾
1) 特定医療法人暁純会 津腎クリニック 臨床工学部、2) 同 腎臓内科

3-6 当院でのウパシカルセトナトリウム水和物(総称銘：ウパシタ)の使用成績

○川野 遼平(CE)、中田 敦博、山本 和昇、出岡 悦子、伊藤 英明子、岩島 重二郎、
河出 恭雅、河出 芳助
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

11:30～12:20 **共催セミナー1**

共催：田辺三菱製薬株式会社

座長：川村 直人 先生(医療法人社団主体会 主体会病院 理事長)

CKDと貧血

村田 智博 先生 三重大学医学部附属病院 腎臓内科 科長

12:30～13:30 **特別講演**

座長：増田 智広 先生(医療法人 尚豊会 みたき総合病院 腎臓内科・人工透析内科 診療部長)

ハイブリッド透析

～PD主治医からHD主治医にお願いしたいこと～

水野 正司 先生 名古屋大学大学院医学系研究科 腎不全システム治療学寄附講座 特任教授

5-1 VAVT における新たな治療選択

○日比 雅人(CE)¹⁾、山中 伸吾¹⁾、柴田 洋¹⁾、板垣 正幸¹⁾、三宅 智紀¹⁾、波田 光司¹⁾、
笹井 直樹¹⁾、竹内 敏明²⁾、青木 俊和²⁾、西村 広行²⁾

1) 特定医療法人同心会 遠山病院 臨床工学部、2) 同 内科

5-2 VA エコー教育プログラムの作成と活用

○塚原 蓮々(CE)¹⁾、藤山 智己¹⁾、仲森 陽菜¹⁾、瀬川 大雅¹⁾、前野 文哉¹⁾、山川 誠人¹⁾、
小津 陸斗¹⁾、平岡 あかね¹⁾、堀本 夏未¹⁾、黒宮 俊¹⁾、片岡 祐也¹⁾、伊藤 史朋¹⁾、
柴田 翔子¹⁾、森 亨子¹⁾、佐々木 太一¹⁾、尾間 勇志¹⁾、清原 実千代²⁾、小薮 助成²⁾

1) 特定医療法人暁純会津腎クリニック 臨床工学部、2) 同 腎臓内科

5-3 看護師によるエコー下穿刺の普及のために

～エコーガイド下穿刺ハンズオン講師の経験から見えてきた課題～

○小川 明日香(Ns)、三上 昌志、堤 陽平、坂本 悠、坂田 久美子、伊與田 義信

医療法人勢風会 津みなみクリニック

5-4 静的静脈圧測定機能によるシャント管理の可能性

○伊藤 章人(CE)、渡邊 知美、奥村 直政、岩井 勇樹、上野 俊、本多 越次、増田 智広

医療法人尚豊会 みたき総合病院

5-5 ムク針の臨床における有用性の検討

○堤 陽平(CE)、三上 昌志、小川 明日香、坂本 悠、毛受 裕貴、坂口 幸伸、坂田 久美子、
伊與田 義信

医療法人勢風会 津みなみクリニック

5-6 AVG モニタリングにおける静的静脈圧の有用性の検討

○近藤 壮史(CE)¹⁾、藤田 佳樹¹⁾、神田 翔¹⁾、吉見 美穂子¹⁾、小林 薫¹⁾、伊藤 英明子²⁾、
伊藤 豊¹⁾、岩島 重二郎²⁾、河出 恭雅²⁾、河出 芳助²⁾

1) 医療法人如水会 四日市腎クリニック、2) 医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

血液透析患者における CKD-MBD 管理

鍋島 邦浩 先生 医療法人偕行会 透析医療事業部 事業部長・名港共立クリニック 院長

**2-1 飲水衝動に駆られる知的発達障害の方に施設スタッフと連携して
食事指導介入を行った維持透析患者の1例**

- 福田 仁美(RD)、村寄 栄子、添田 千恵子、高田 美佳、山本 彩楓、小畑 悦子、
田中 未来、稲岡 理花、山本 百花、玉村 美恵、益子 久美、松村 典彦
医療法人康成会 ほりいクリニック

2-2 神経性食思不振症の患者に対して食事指導をした経験から学んだこと

- 岩間 祐美子(Ns)、柳田 圭祐、川波 かおり、山本 和昇、出岡 悦子、中田 敦博、
伊藤 英明子、岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

**2-3 下肢難治性潰瘍患者のセルフケア支援を通して
～足を守るのは患者自身～**

- 田中 枝里子(Ns)、今西 旬子、寺岡 朱実、町野 友美、杉岡 未咲、藤森 清美、
小川 多賀子、岡川 祥子、亀田 陽一
医療法人泉澄会 亀田クリニック

**2-4 体重過多と透析効率の低下を繰り返す患者の支援
～病気に対する思いや体験の傾聴～**

- 庵原 恵実(Ns)、川下 結子、大井 英里子、小西 佳代、森川 泉
社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院

2-5 体重管理不良な患者への体重管理表を用いた看護介入

- 柳瀬 久美子(Ns)¹⁾、村林 麻子¹⁾、藤田 佳樹¹⁾、吉見 美穂子¹⁾、小林 薫¹⁾、伊藤 豊¹⁾、
河出 恭雅²⁾
1)医療法人如水会 四日市腎クリニック、2)医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

4-1 無床クリニックでの終末期における ACP 介入の重要性を考える

- 新谷 貴子(Ns)、岩間 祐美子、柳田 圭祐、川波 かおり、山本 和昇、出岡 悦子、
中田 敦博、伊藤 英明子、岩島 重二郎、河出 恭雅、河出 芳助
医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

4-2 当院透析中のフィリピン国籍者に対する医学管理

—特に防災意識・自助能力の向上を目指して—

○納所 真里(CE)、原澤 博文、原澤 桃子、柴田 守、西山 誠、田中 章規、笠井 優樹
医療法人さくら会 さくらクリニック松阪

4-3 家族支援が困難な認知症患者への関わり

～認認介護へのサポート体制～

○片山 哲也(Ns)、鈴木 久美、浅原 典子、小泉 奈保美、後藤 浩也
特定医療法人同心会 遠山病院

4-4 当院における新人スタッフ教育と今後の展望

○岸 隆司(Ns)¹⁾、河田 満貴²⁾、三浦 真²⁾、伊藤 喜代子¹⁾、森 寛貴²⁾
1) 国民健康保険志摩市民病院 看護科、2) 同 医療技術科 透析室

4-5 透析センター看護師が行う予防的フットケアに関する現状と課題

○中野 洋子(Ns)、小野 孝美、増田 智広
医療法人尚豊会 みたき総合病院

4-6 腎移植希望患者に対する透析施設看護師の役割

○東 文香(Ns)、中瀬 千幸、坂田 久美子、伊與田 義信
医療法人勢風会 津みなみクリニック

11:30～12:20 **共催セミナー2**

共催：テルモ株式会社

座長：藤見 奈央 先生(三重大学医学部附属病院 看護部)

わたしたちが目指す腎不全看護のあり方とは

今井 早良 先生 日本赤十字社医療センター 血液浄化センター

13:40～14:40 **一般演題6 医師部門**

座長：坪井 俊樹 先生(市立四日市病院 腎臓内科)

6-1 新型PTAバルーン、カメレオンの使用経験と有用性の検討

○伊與田 義信(Dr)、坂田 久美子、小川 明日香、西山 真澄、藤井 ひとみ、小久保 恵奈、
村田 知佳、森 拓也、伊與田 舜、坂口 幸伸、三上 昌志、毛受 裕貴、坂本 悠、
堤 陽平
医療法人勢風会 津みなみクリニック

6-2 透析中のエルゴメータ実施が穿刺側上肢痛に奏効した一例

○瀬古 征志(PT)¹⁾、川村 直人²⁾
1) 主体会病院 総合リハビリテーションセンター、2) 同 内科

6-3 短期再狭窄症例に対する薬剤コーティングバルーンの治療効果

○伊藤 豊(Dr)¹⁾、伊藤 英明子²⁾、岩島 重二郎²⁾、河出 芳助²⁾、河出 恭雅²⁾

1)医療法人如水会 四日市腎クリニック、2)医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック

6-4 Candida parapsilosis に起因した真菌性腹膜炎の一例

○秋山 言宇(Dr)、三浦 翔子、西田 順二、横井 友和、安富 眞史

地方独立行政法人 桑名市総合医療センター

6-5 当院で使用された drug-coated balloon (DCB) の有用性の検討

○中井 貴哉(Dr)、坂口 友浩、佐藤 貴志、小里 大基、大西 孝宏

伊勢赤十字病院

6-6 asisted PD により在宅および施設退院が可能となった2例

○西田 順二(Dr)、秋山 言宇、三浦 翔子、横井 友和、安富 眞史

桑名市総合医療センター 腎臓内科

14:50～15:40 **共催セミナー4**

共催：キッセイ薬品工業株式会社

座長：西村 広行 先生(特定医療法人同心会 遠山病院 理事長)

生命予後を意識した CKD-MBD 治療

成瀬 友彦 先生 春日井市民病院 腎臓内科 院長

特別講演のご案内

Zoom 第1会場

12:30～13:30 座長：医療法人 尚豊会 みたき総合病院 腎臓内科・人工透析内科 診療部長 増田 智広 先生

ハイブリッド透析 ～ PD 主治医から HD 主治医にお願いしたいこと～

名古屋大学大学院医学系研究科 腎不全システム治療学寄附講座 特任教授

水野 正司 先生

共催セミナーのご案内

Zoom 第1会場

11:30～12:20 **共催セミナー1**

共催：田辺三菱製薬株式会社

座長：川村 直人 先生 (医療法人社団主体会 主体会病院 理事長)

CKD と貧血

村田 智博 先生 三重大学医学部附属病院 腎臓内科 科長

14:50～15:40 **共催セミナー3**

共催：株式会社三和化学研究所

座長：町田 博文 先生 (特定医療法人 暁純会 武内病院 統括部長)

血液透析患者における CKD-MBD 管理

鍋島 邦浩 先生 医療法人 偕行会 透析医療事業部 事業部長・名港共立クリニック 院長

Zoom 第2会場

11:30～12:20 **共催セミナー2**

共催：テルモ株式会社

座長：藤見 奈央 先生 (三重大学医学部附属病院 看護部)

わたしたちが目指す腎不全看護のあり方とは

今井 早良 先生 日本赤十字社医療センター 血液浄化センター

14:50～15:40 **共催セミナー4**

共催：キッセイ薬品工業株式会社

座長：西村 広行 先生 (特定医療法人 同心会 遠山病院 理事長)

生命予後を意識した CKD-MBD 治療

成瀬 友彦 先生 春日井市民病院 腎臓内科 院長

一般演題
抄 録

1-1 当院における COVID-19 透析患者の 透析療法・感染対策について

○関岡 彩華(Ns)¹⁾、三井 美輪¹⁾、
中村 てるみ¹⁾、大和 俊介²⁾、米村 重則²⁾、
中島 淳子¹⁾

1) 松阪市民病院 看護部、2) 同 泌尿器科

2019年12月頃に中国武漢市で、最初に新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19とする)の患者が発生し、以降、世界中でCOVID-19が大流行となった。2020年3月には世界的大流行(以下、パンデミック)宣言が出された。日本国内でも感染第7波という大きな波をこえたところである。当院はCOVID-19の受け入れ病院であり、2つの病棟をCOVID-19の専用病棟として運用している。当院ではこれまで25名のCOVID-19感染した透析患者を受け入れてきた。COVID-19が発生してから今日までCOVID-19に関する疫学・臨床情報が蓄積され、ワクチンや治療薬、さらには感染を制御する方策・手段も向上している。当院でもCOVID-19発生からしばらくは全症例入院下での透析療法を行ってきたが、2022年8月より外来通院下での透析治療を行っている。これまで経験した25症例をもとに、当院でのCOVID-19透析患者に対する透析方法や感染対策につき報告する。

1-2 COVID-19陽性の透析患者の 受け入れを経験して

○吉田 美羽(CE)、三宅 真人、安江 一修、
安田 芳樹、水野 大貴、山下 大輔
JCHO 四日市羽津医療センター

【背景】 当院では2020年より新型コロナ病棟を開設した。それに伴いCOVID-19陽性の透析患者を受け入れる方針となり現在まで21名の患者を受け入れている。これまでの経験や問題点をまとめることで、今後の診療に活かすとともに、隔離透析を開始する予定の施設の参考になればと考え当院での経験を報告する。

【環境整備・運用】 従来隔離透析は個室の専用部屋で対応してきたが、多くの患者を受け入れるため、新たに4人部屋を血液透析専用部屋として設置した。2床同時透析が可能となるよう、機器、周辺配管を整備し、最大4名まで隔離透析が可能な運用とした。治療は臨床工学技士1名が担当し、紹介元の透析条件を可能な限り踏襲した。

【感染対策】 臨床工学技士はPPEの着脱に不慣れであったため、PPE装着マニュアルを作成。PPE着脱訓練を受けたスタッフが治療を担当した。透析後は塩素系除菌洗剤で各装置を清拭した。

【患者経過】 中和抗体などの投薬を行った症例が11例であった。転帰としては退院19名、重症化のため転院が1名、死亡1名であった。

【まとめ】 穿刺ミスに対してかなりのストレスがあったが、エコーの配置で緩和できた。また、患者と同室内で治療を担当したことにより、迅速な患者対応ができた半面、PPEを長時間装着する苦痛や感染予防の観点からは問題があると感じた。今後遠隔モニタリングシステムの導入を検討したい。

PPE着脱マニュアルの整備と訓練により、2次感染は起こらなかった。

